禮容筆辯

三

ロ仁9
1.264
3

門 ロ仁9
帙 1.264
冊 3

宮内省図書寮

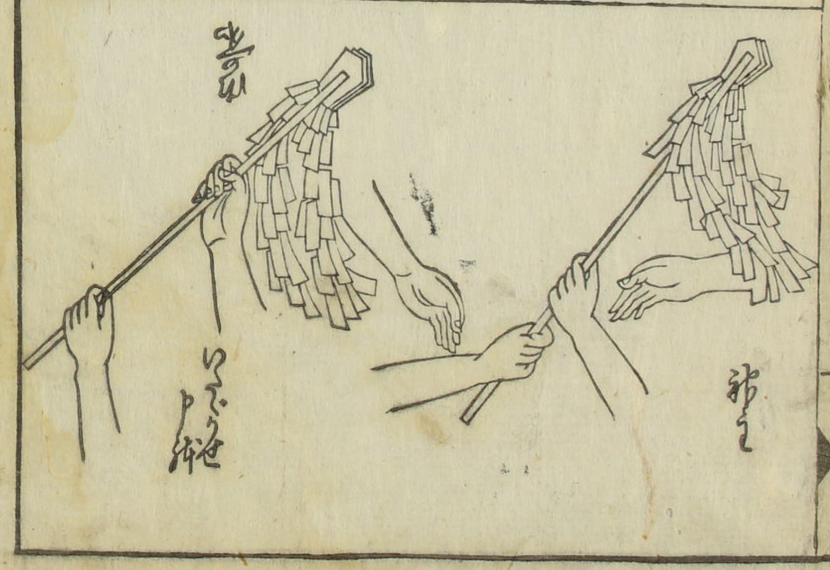
礼容筆粹 巻之三

言上之事

物語の中人の御前にて人合やうなりしかんようなりしかど卒爾
なりしかどもいとあはれなりしかどもいとあはれなりしかど
御前にて人合やうなりしかど卒爾なりしかどもいとあはれなりしかど
同付あり琴譜これ新撰の上に御前にて人合やうなりしかど卒爾
なりしかどもいとあはれなりしかど同付あり琴譜これ新撰の上に

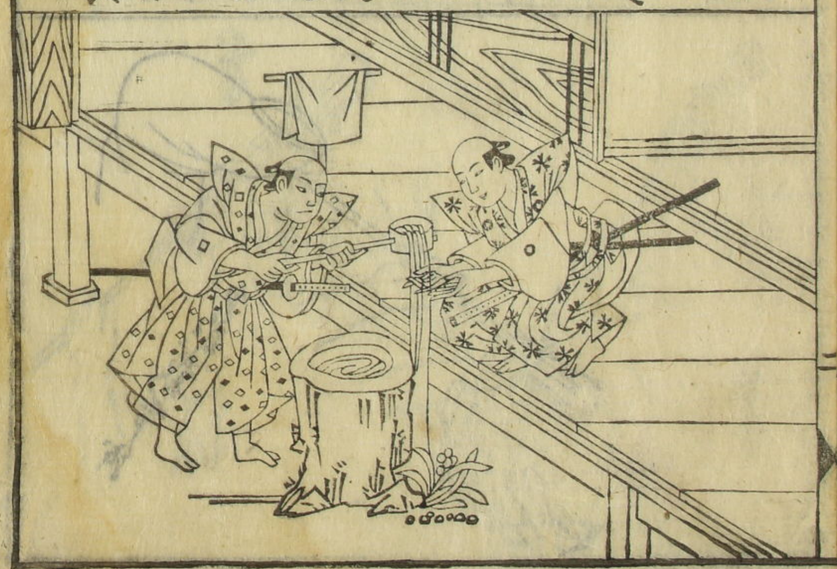
御幣しう

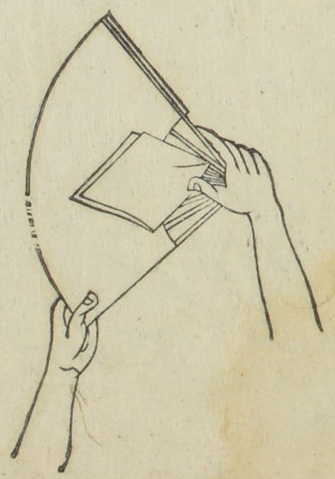
主殿人神社へ参詣の時は供の男とる
の瓜神さまは御幣は法花経の巻へ
さげ奉り裏ざとりあり山王神おそ
常に出仕あり神社なし
へ立て出仕敬へ御へ参りてゐるいと
神さまは出るは裏へ参へさげ
出家は不及申しさて法花は出家
人法花ていさつせしもの
神は御幣は右を右へ裏さげて
左へ右の裏は左へ左へさげた
右へ左の裏は右へ左へ
て参へ上へ右へ
とるもの



同上

右のごとくして主人へいさつせさせ
て法花は言ふ右へ左へ
きとの法をじめ
せは法花は右へ出部の
さは右へ左へ
づれは神へ
ていさつ
てうづいとは恭部
し伝へしてちんで
ひうづ神へ
右へ威は中人神仏の
よりへ運は
神事なのとれ





小刀とをるる

半人は小刀はをるるの法前の小刀なしば小柄のものをぬれを中指人さし大指のうちをつまをたのもはちの前の下に添く背を半人の出方ふしをせ鞘をとりて其上をし紙小刀なしば小柄と小刀のまちのうはさを裏の方ちられて其上をし其中なしば小の背はをて刀のをる紙をたのをとれをつのく其上をし其上を元をくを懸などをくそひけたるはのすし半人の出方はいはしてもをつかるぬれなれども柄のをうをとつけをしふるし鞘の裏の方のすふすいんやをるるのすいんや

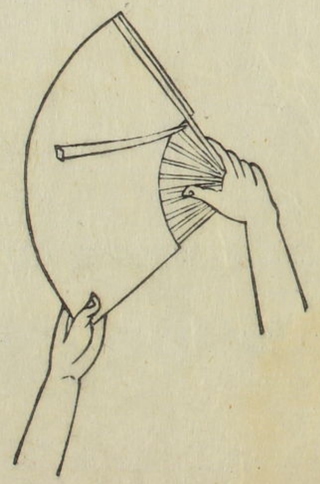
扇子を開くるの

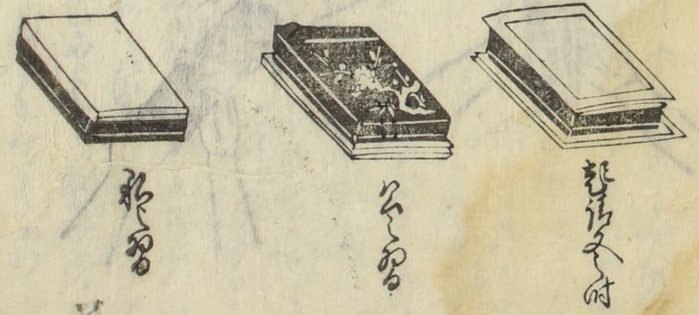
半人は扇はをくつまをれをして地紙と半人のたの方へおなびけれを骨うを人へひらをぬやうをして其方刀の刃はをまを刃の方半人へひけををくをろとをしすし扇ををかくのをくしかるめのうへとををつまをまをぐふれをたくをたの方をたのこぶしの下に添くをるををしむれをての方は半人へひらををとなり見るをかををしのをのをハ山理ををくはをしかををしの地紙をはををしの紙をををを

本花生花法

[illegible]

[illegible]




紙箱
懸紙
懸紙入

久箱くゝり

ふくさ　久箱の上の掌よりけんたかく久箱のうら
とれ　ふくさ　ひらき　ひらき　ひらき　ひらき　ひらき　ひらき　ひらき　ひらき　ひらき　ひらき
ひらき　ひらき

半人前の物知りなり

ゆかしき物などゝ云ふ時は御指とゝ云ふ

指わかれば指とゝ云ふ長紙とゝ云ふ

小屋掛紙がひざの上にぶらさがり

わるくさげ法をなさんたのもしかの

方ゆかぬ〜ゆるく業のゆくさは指甲

さきとかゝれて指しゆくさはのゆくさは

合のゆうすゝきゆかぬ〜ゆかぬ

あり物にてなひだ〜うきんを

ゆすの獣などは指ぶくの時などは

のゆくさはつゝさげ法をうるなり

指だ〜ゆかぬ鞠を指すゆかぬ

上なれば指文はゆかぬ指ぶんれ

ゆかぬ〜ゆかぬ〜ゆかぬ

言語ゆかぬ

うぐひすをうけれるゆかぬ

箒と竈桶ゆかれ

指出ゆかぬ人ゆかぬ

ゆかぬ指ゆかぬ

ゆかぬたのゆかれ〜ゆかぬ

のゆかりけゆかぬ

なぐゆかぬゆかれ

桶ゆかれ出〜業ゆかぬ

まゆかぬめの方ゆかぬ人ゆかぬ

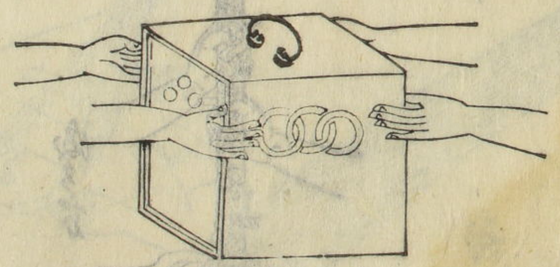
たゆかぬゆかぬ〜ゆかぬ

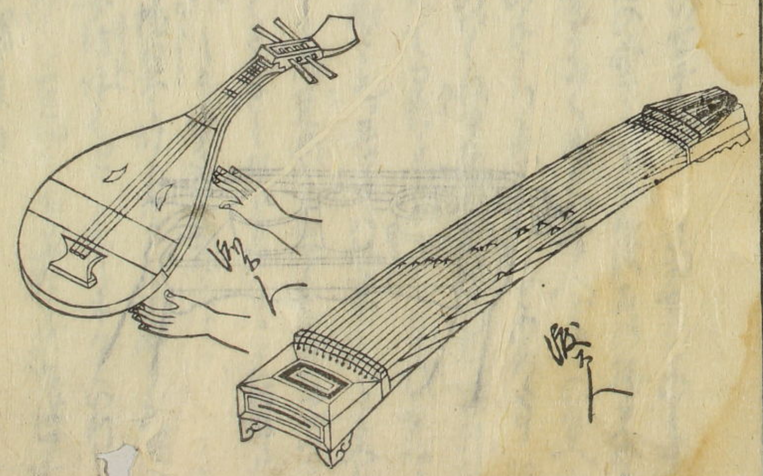
ゆかれゆかれの中ゆかぬ

うけれゆかぬ〜ゆかれ

ゆかぬゆかぬ〜ゆかれ

ざゆかぬ事ゆかぬ



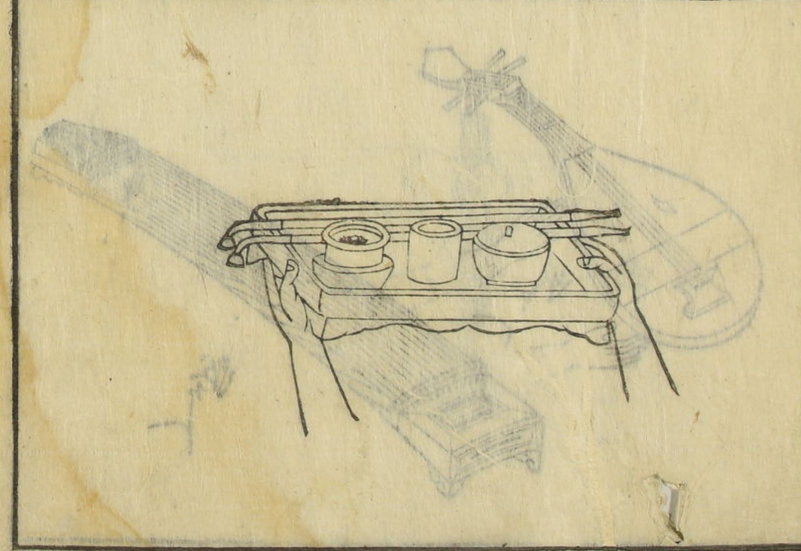


琴琵琶

琴琵琶人前より出びらきすハたのよ
てくらの中行の下よさし入たのよ
てそてようかくのとくにかへて物さ
ばかりまつ〳〵物ふしの〳〵
ゆてゆびゝ琵琶〳〵
いくにく貢にたかくたたのよそ
撥面のとさ〳〵ゆいそのくにくへ
てたちのひぎにつさ打〳〵まつて
あとのけ中〳〵海老尾のくにたた
よなくやうゆてちとけ〳〵入くく
風拍よさくひだ〳〵社にわたり
と四帝し拍子さくひ人ゆとちら社
と白菊撥技おゆて吉ゆなりす
ゆんなりし

煙草盆

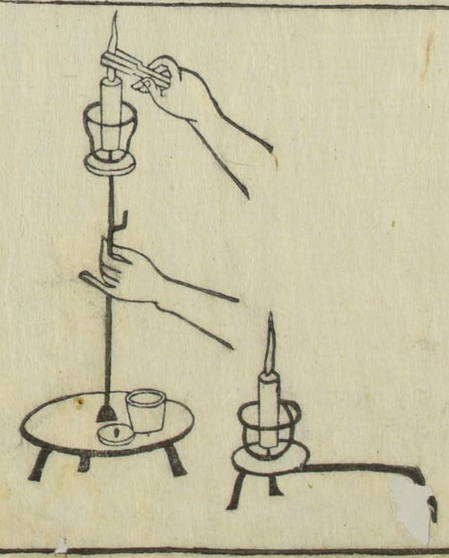
あ香はいたごこがんとなるくすの
このごろの風俗すてむ半紙の巻
葉ちも先をするすよなりめ物おれ
ゑ之の法すゆるふ四ゐうくこう
なーたわくあるとふちとうく
たれ法くわ玉ゆ巻くあて線ッ
つきたゑたたよさきれそへち
とさーいるし沖し返さ入るだし
ねえなどこがん紙会ゆうはたこと
入の巻人よしのふきたの方央人はたと
あのたし煙管ハ巻人の方ふ方なて
そ巻央異の方れたへかしあふち
かけてもしこうがるこのはいひふだの
き弟のたき央入たよたどこし



うす茶くす

ゆふーへよハ武ゆめあと臺ょ茶碗とのせ十ぶゆうー当世ハさのくゆそ
代掌ょのせくおちるし母ょ巻ハ当世世中方よゆく周く客人世中の方へれ
ちくくおちるし母ょ巻ハ当世世中方よゆく周く客人世中の方へれ
入の時世中かひよまりうたくよ世のよちち玉よものとかれくす紙
ひくくも食ち方などわるキ。きちのかくれ巻の美術なし古礼男
世ょかぎーび巻紙月ひお人巻ょ巻ハ巻ょ巻ハ巻ょいーよみ紙
なり男女の礼ゆ礼ゆめ巻ょ巻ちるうハ巻ょ巻ハ巻ょいーよみ紙
礼し茶碗あくーして掌とやゆ紙ひ美術ょとどもと濃茶ふくさ
ちくとハふかつれう濃茶ハたふくすーてよくくそくくたるもれしちょ拭ちる人
ふくさ紙すけざれば易び張きすあるべーう千茶ハ巻ょすへべくそも
振張き袱ちあれりくべくびん紙一拭墨ち付ようなどハ紙するれっハ
拭宝くの時ト出ょ巻ハ巻ちくかん女結仕し男ょ事ーまちちの付いも
と巻下ゆしもまくすちくの遠ひなり古礼も見ふなびち紙やて
今とおひすいんともしくくきの調ちり

こよりをねる図



そくとんをうつす図

燭台（しょくだい）

ちくさいらくそくこころのうつり　圖

ちくさいらくそくこころのうつり　ちくさいらくそくこころのうつり　ちくさいらくそくこころのうつり　

家法四條

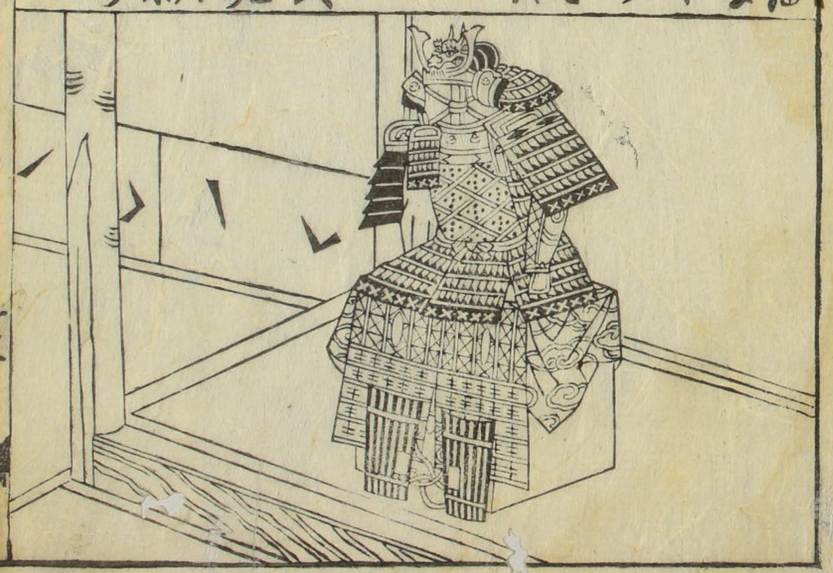
家は門を閉じ半人の出家より始め門も閉じ板
敷の間に居まる男後ろ向きの例にはめきそれ
ぞれ時に家とびめくだり〜は時時きまり
ゆく家つらびしてものびくときは家門まかせ
と人のうくへひるせそつるべき色のうち拵れのあく家
とまけだらしび時白紙の家て紙らぬのかんどふてとも佛
ゆきの白で沒ゆとあはざしみる半の出家ゆく家門ならば家
云ひらひき俯きて和ぐらりとわぐだらしみる人の家ゆ紙うと
門板の半人はら家ゆくに白つふだりびに出家きと人家ゆと
ゆくすゆく書の半ゆはざゆ寺なりぐ〜沒るゆるまくよ出
ぬらはるる半の中示たなる家の中例へ家の出俯ぐらゆ平俯
うたたのよは甲或はひらのゆるゆらゆ物ゆくひゆぐらゆ平てそぐへと
制拵ゆその家のびゆきゆ門ゆくひゆ家ゆ出ゆ家びゆ
てゆひとゆ〜ゆぐゆをゆく礼敬ゆ民間ゆてし孔ゆ〜ゆ
なられ

紙拵ぬきぬくなゆ〜ぎゆゆ
他家へ住ゆなどゆゆ先紙のゆ人家ゆ家ゆ出ゆ平紙作などゆゆ時
拵ぎ弁髪ゆゆ平ゆ人ゆ例ゆ出ゆ平ゆ紙ゆ時ゆ平ゆ紙拵ゆぬゆだ
いゆ紙のゆゆゆ眼拵ゆぬゆゆ武士の作法ゆ時ゆ半人ゆ例
の家ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ用心のゆ紙ゆゆぬゆゆ平紙ゆゆ
半紙拵ゆ時ゆゆ紙のゆし家ゆ紙拵ゆ毛ゆゆぬゆゆ紙付紙
き紙拵ゆぬゆゆゆ用ゆ武ゆゆゆ早竟紙拵ゆ法の御頁ゆゆ武ゆ
拵ゆ不足のゆゆゆ紙拵ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ用ゆ武ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
力ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
きゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

実の上へ活びべし等この人名字をうしなはずでに玄実の
正中に上るべしいくらも紙ばかりもちのうちなるべしいとかたの
たよりかたちて上ぶし又法師として赤手のうへにまつたくべし武
ちり糸をくくりかけぬき毒人のすんどに所詰ちかけて
上るべしいかんとわれ当付武州幕府の拵作かくのごし

甲冑かぶり拵又絹しぶ

ちひかぶとを高く飾へ活背ハすげ北向に高ぐ〜かくひかの
上よりくさはすきうけて表胴うけとして胴ばりけたちのかるばさし
ら絹ぶりをめとしひそびに袖ばりけ釜とたてちのひの結わく鞘
かくこうけ鞘とうちのめてかぶるべしとをいもけげんぶ
とこ云ばの対しかくのごくよかぶるし拵又絹活背ハえうち有ばぬき
月二三人とをぶそくこんぶ〜ちかくく水とうこいはばすぐ鞘結と
結ぶべし先射ちうこんぶじめ景箱板のわらとんぶべたいけたばば
なる方なれどかるしびんぶべりびんを亭主ばかりぶ
とをくばの方沖しとうべきしわくばたとも板とをとんぶべし蓑人



ちちをとうとうとハ蓑ものとうびの面
を毛ばの頭へとばのとうとかとのもの
わどあるりれわどくしのかりかうちや
うよりたいさはやうよりたたいを或いう
めくくひかくかの拵鞘かんどくと
なるぶ感情を作くたるの風情ば
いるるべし

刀拵ちの絵うす

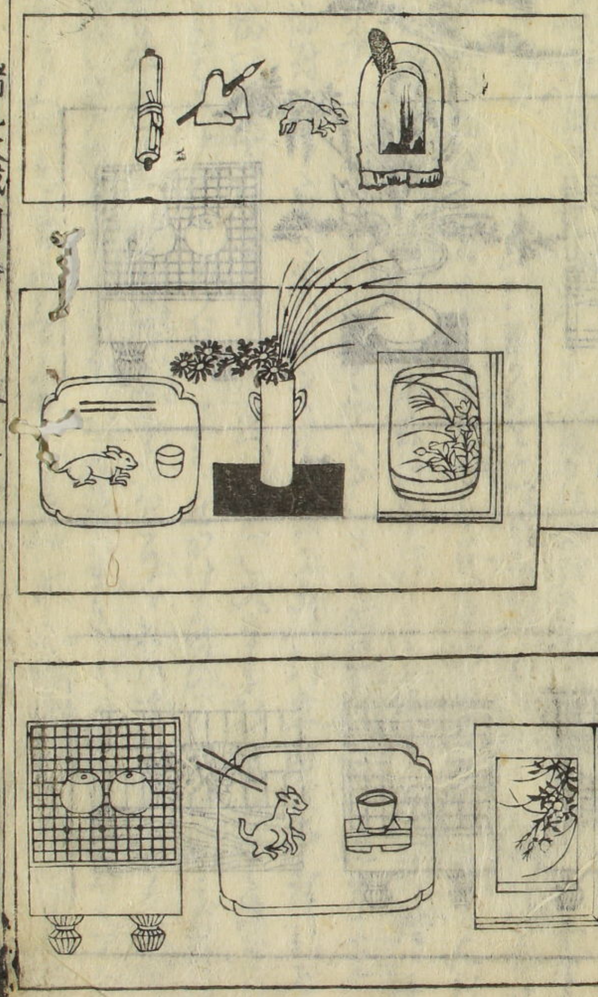
人弟よりのくく人の刀拵とうべ
きうるわるべし人のひとりの色
のどく活れ小尾とたいなし物ば
またの中拵を活くつきまり活栗
鞘のあらなどくくうとてあいち
しばばびべし中をとたんとあ

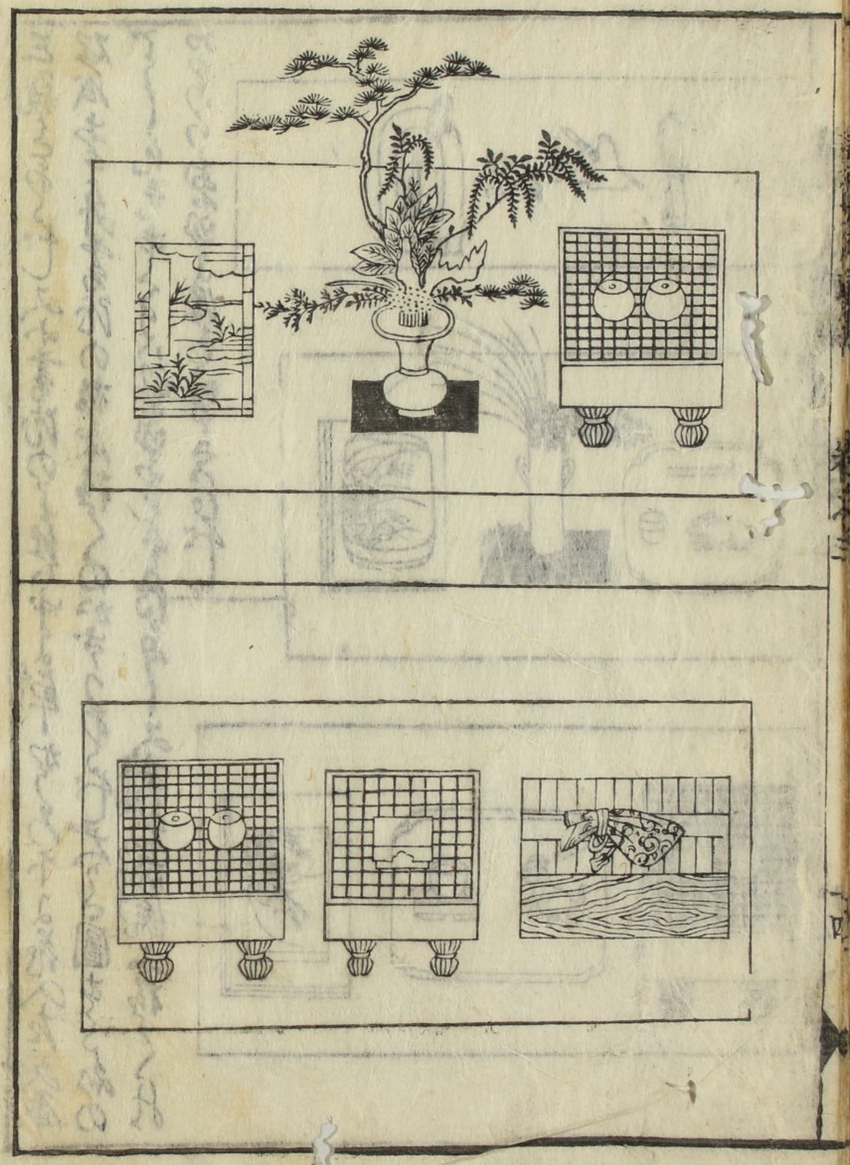
ら八寸は懸帯のあくさにて五寸
とおりけんかとしてもけいぶ
ぶかなしてたのもしゆくわくひ
ひらきとめけ出るし初さやと
てあくさにて掾のようひろげさやの鞘にとふくさをそぬぐいさやと
くさ一上ぶり一こしにさしくまいすぐよさやとわりさ立ちこうけてさや
よりさしもしめくはいさをそめさるはいさやうりれさしるとやたし
差文例よりありて拵をとうこうとのとで脇ぶ人の方へ刃と我方へかけて
たく柄とおりたれたるどうと初ひるすけて流ぶしを拵さやとしも人の方
へまひしかれの同人のめさたるり拵とさやよりれさしるうれさや拵
たくおたくよ拵をとれさやとさ結とうべくおさしるとうしるる心
ぶ在ぶやうやういまく撓さび

麻かざりのす

とこかざりのひ貫ふくあり唯ちこ二つ伏とりくるよ圖ひ大事書院屋
うりのどれ三ちもわる大麻なりしバ言花ぶ初こ初わるぶし立花ハ一親分

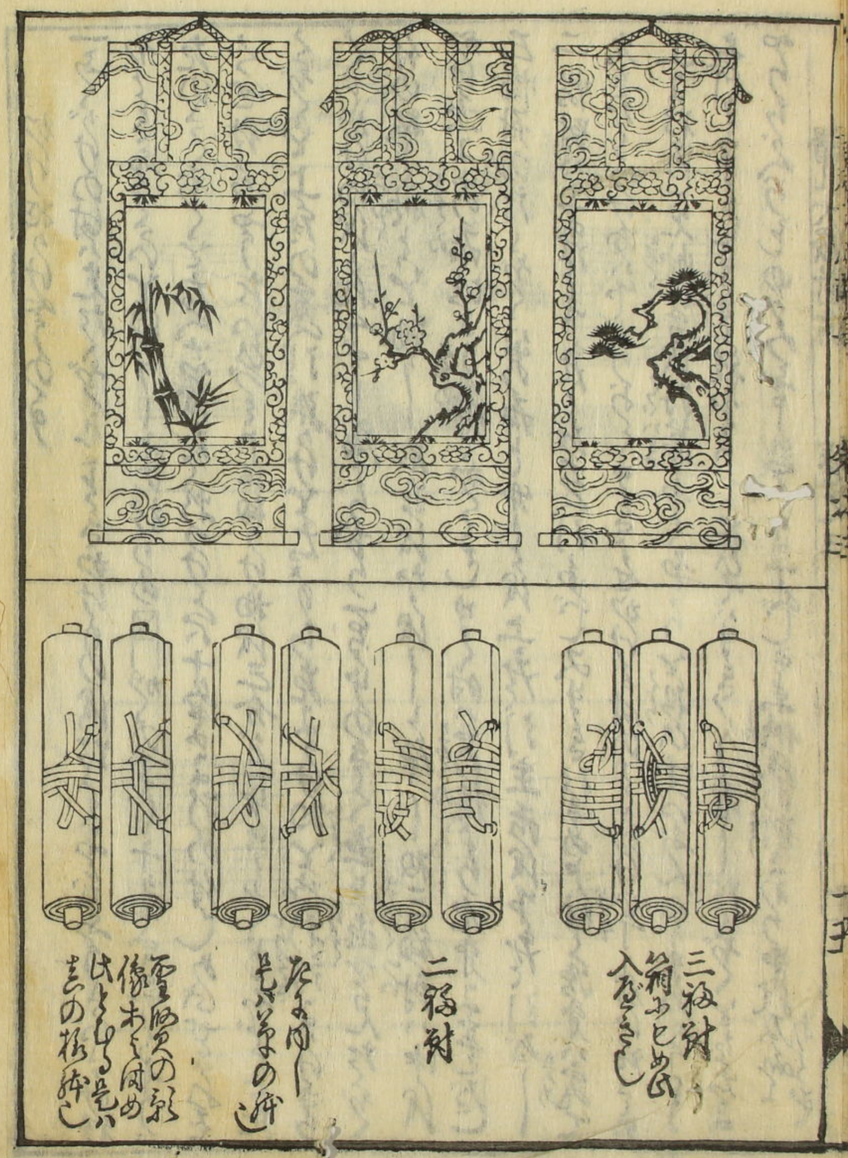
三親ことあるぶしみ書院のこ花ハ中よ草かうろ下よ花へたこ久麻
双紙書中外書院の拵麻拵くのかざりあるぶし大くこ圖ちこ初の
どしれ花ちくすハ礼ちゆちもちを伝ちみ草ちゆ流み拵くれ
ぶりありあるゆこ初こくりるこいひ





かけ物のけいこのすぢ

一ふくりけの図は先たなぐくとときかけの紙たくみむふうくらいとけ程
やどときあうういとのぞ一上のわりめ図がくのごく十分のよりかくやう二
たのうくぐくとたくたくたくわつけ六十分のよりめ付しめさせうめを
くせ付るあうたいひづきドはねうけ物は三分ど二中さうくくてぐきた
くぐくと上方の方へ引張りけとたっすち花よりけ和とおおりすよりけきち
くとかけ物はれぐ一庫ら物ぐうち中のきく主ふ主をうんたぐく
付の紙とれやくとと動ぐ一石主は物ぐ一ねこ紙射ハ中は
かけ次よ寄石次よ寄石とかくるもしまく時ハ寄偏ぐう次寄よ寄ど
三幅対のたくぐくハ寄石と中と物上方引主石は下方を引ぐし
二幅対ハ上方と下方とかたへ引あぐしみまきたきあ戸時ぐ次寄ハ完て
大きなるかけ物ハやーりおくまきをかけるけのぐくかけ竿よかけたくこの
上よりたち先れの方は物幕おくをとうとおひずいぶんゆぐまぬやうて
ちぐりよまくしまきく紙やうとおひそハまきくナぐ一たくぐくをたたよ
やうちぐくりもゆのみまき巻よよすぐしを系偏漆の別まわり巻れ及めよ
わうぐ



同じ花のこと

おなじ客よりたびたびまいりたるばせかざりかけ物は必ず付だし一ぶくの是非ばかりなりとも新しきの礼なしに必ず付感情のすぐれたるわかしたる床の花三四人程よりもり花をぬき然る貴の圖象あれば花をもつかへの名字なくば感心の後工夫し三幅対たるべ中沈又あ位主位と人物をもべし物を外のかざりなどたぐの気ばつけるべし花をもつかへの名字なくば感心の後工夫し三幅対たるべ中沈又あ位主位と人物をもべし物を外のかざりなどたぐの気ばつけるべし

生花のこと

花のすがたは草花竹木なくのおのおのはくわるべし外のおろそれだけどく立べきなわべ性早下の生花つの花花生の枝付うけ花入つり花入おく枝子四季おのくよ用いきのなどのあるべしとも作り花ばくらの草もの流の花なしかもろくに図しく仙花やし半人とあ人おくと立花江下の花ばくもの相よりたりの付まへ

先四代さしと作られ　とも　ハ　遅く　きめが礼第し　図家と　天人
さしなげ人の　ハ　花　出　ゆく　心　ゆ　心なりたる　人　ゆ　二　切の花
ら　ハ　下　ハ　さして　上の　切　ゆ　人　ゆ　つ　ゆ　心　立花　ゆ　ば　なり　し　へ
下　ゆ　出　ハ　ゆ　げ　て　心　ゆ　心　副　胴作　ゆ　ん　ど　ハ　半　ん　ゆ　ゆ　ど　ゆ　げ　へ
の花　ハ　花　入　ゆ　ゆ　く　隠棲　高　変　の　法　ゆ　わ　り　之　法　ゆ　し　と　云　ゆ　の　び　ゆ　ゆ　る
物　ゆ　家　ゆ　し　ゆ　の　ゆ　れ　全　せ　ゆ　そ　ゆ　れ　ゆ　る　ゆ　ゆ　ふ　ゆ　ゆ　ゆ　ハ　ゆ　ら　い　一　枝　ゆ　ゆ　も
二　枝　ゆ　も　み　ゆ　三　枝　も　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　草　仕　ゆ　生　花　ハ　三　枝　と　ら　ゆ　ゆ　り　ゆ　ゆ　ゆ　し
一　枝　ゆ　二　枝　ゆ　く　ゆ
と　ゆ　い　ゆ　り　ゆ
ぬ　ゆ
ゆ　ゆ

○元日之花　梅之類　金玉花　松　苔草　○上巳　桃之類　山吹　柳　菖蒲
○端午　あやめ　竹之類　ヲ沢　○七夕　橋之葉　紙花　桔梗
○重陽　菊　天竺花　錦形花　書て之三絵